



# なんでやねん



発行責任者 倉橋 忠

No. 7 5

## アンケート結果から 2学期の「学び」を振り返る

### 1 公民的分野が好きな人は、少数派

テスト成績から見ると、公民的分野の定着度は一定の成果を上げています。たとえば、11月4日実施の市内統一学力調査の結果では、公民的分野の達成率は市内の平均点とほぼ同じ水準でした(地理的分野と歴史的分野は、かなり下回りました)。

授業中の集中度も、歴史的分野の時とあまり変化はありません(1組は集中できるまでに時間がかかりますけどね)。むしろ、1学期の時より、1組も2組も多くの人が発表できるようになっています。

ところが、2学期末アンケート(12月20日実施)の結果は意外でした。公民的分野の好きな人が36.4%(「まあまあ好き」と「好き」の合計)と少なく、きらいな人が33.6%(「きらい」と「ちょっときらい」の合計)もある結果だったからです。

歴史的分野では、1学期の終わりには好きな人が45.8%に増えていたので私(倉橋)は厳しい結果だと受け止めています。

アンケートの回答者の様子から考えると、「正解を覚えよう」としている人が「きらい」を選択しているように見えてきます。君たちに考え直して欲しいので、少し説明しておきます。

公民的分野に入ってから授業では、私は授業方法を少し変化させています。歴史的分野の時には、過去の歴史的事実を理解することが中心でした。しかし、公民的分野では、実際に今の社会で起こっている事実を学びます。その際、どうすれば、理想の社会を築くことができるようになるのか、自分ならどうするかなどと、未来形で考えることを、歴史的分野の時よりも多く求めるようにしています。

それは、公民的分野の学習目標が「民主政治の意義、国民の生活の向上と経済

|                                      |          |           |           |             |        |
|--------------------------------------|----------|-----------|-----------|-------------|--------|
| ① 社会科(公民的分野)は好きですか? (数値は、%)          |          |           |           |             |        |
|                                      | 1 きらい    | 2 ちょっときらい | 3 何とも言えない | 4 まあまあ好き    | 5 好き   |
| 7月調査                                 | 11.9     | 25.4      | 42.4      | 16.9        | 3.4    |
| 12月調査                                | 7.3      | 27.3      | 29.1      | 29.1        | 7.3    |
| ② 社会科の学習は、将来の役に立つと思いますか? (数値は、%)     |          |           |           |             |        |
|                                      | 1 全く思わない | 2 あまり思わない | 3 何とも言えない | 4 なんとなくそう思う | 5 そう思う |
| 4月調査                                 | 1.6      | 14.8      | 21.3      | 44.3        | 18.0   |
| 7月調査                                 | 8.5      | 10.2      | 11.9      | 39.0        | 30.5   |
| 12月調査                                | 0.0      | 10.9      | 9.1       | 45.5        | 34.5   |
| ③ 社会科の学習は、ふだんの生活の役に立つと思いますか? (数値は、%) |          |           |           |             |        |
|                                      | 1 全く思わない | 2 あまり思わない | 3 何とも言えない | 4 なんとなくそう思う | 5 そう思う |
| 4月調査                                 | 6.7      | 35.0      | 25.0      | 28.3        | 5.0    |
| 7月調査                                 | 8.5      | 23.7      | 23.7      | 32.2        | 11.9   |
| 12月調査                                | 1.8      | 12.7      | 23.6      | 41.8        | 20.0   |

|      |       |           |           |          |      |
|------|-------|-----------|-----------|----------|------|
|      | 1 きらい | 2 ちょっときらい | 3 何とも言えない | 4 まあまあ好き | 5 好き |
| 4月調査 | 32.8  | 23.0      | 16.4      | 24.6     | 3.3  |
| 7月調査 | 13.6  | 15.3      | 25.4      | 32.2     | 13.6 |

活動とのかかわり及び現代の社会生活などについて、個人と社会とのかかわりを中心に理解を深め、現代社会についての見方や考え方の基礎を養うとともに、社会の諸問題に着目させ、自ら考えようとする態度を育てる」ことだからです(文部科学省「学習指導要領」より)。

そこで、公民的分野の授業では、歴史的分野の時よりも多く、意見対立のある「論点」を学習課題に私は取り上げています。ですが、最後の決断する場面で、私の持つ「正解」を君たちに伝えないで、君たちに考えてもらおうとしています。つまり、暗記だけの受け身の学習ではなく、社会問題の中から解決すべき「課題」を自分で発見し、自分の考え(思考と判断)を表現する主体的な学びを、私は君たちに求めています。その点が「正解を覚えよう」としている人には、「わけが分からない」ということになるでしょうね。加えて、「覚えることが難しく、しかも多い」から嫌いなのかも知れません。

多く(80%)の人が考えているように、公民的分野の学習内容は、きっと将来の役に立ちます。それは、知識だけでなく「思考・判断・表現力」が身についたときに最も効果を発揮します。3学期は、さらに難しい社会問題が君たちを待ち受けています。君たちの学力を鍛えるために。つらい試練ですが乗り越えて欲しいと思います。

2 まだまだ足りない 普段の学習・学習姿勢

2学期に入ってから、  
「できの良い」ノートが増えました。それは、ノート整理をふだんからする

|                                                     |          |           |           |             |        |
|-----------------------------------------------------|----------|-----------|-----------|-------------|--------|
| ④ 授業の初めに教科書をマル読みしているとき、自分も黙読(もくどく:だまって読むこと)している。(%) |          |           |           |             |        |
|                                                     | 1 全く思わない | 2 あまり思わない | 3 何とも言えない | 4 なんとなくそう思う | 5 そう思う |
| 12月調査                                               | 9.1      | 10.9      | 16.4      | 18.2        | 45.5   |
| ⑤ 社会科の学習について、ふだんからノートの整理などを行っていますか？ (数値は、%)         |          |           |           |             |        |
|                                                     | 1 全く思わない | 2 あまり思わない | 3 何とも言えない | 4 なんとなくそう思う | 5 そう思う |
| 4月調査                                                | 20.3     | 28.8      | 16.9      | 30.5        | 3.4    |
| 7月調査                                                | 3.4      | 23.7      | 15.3      | 39.0        | 18.6   |
| 12月調査                                               | 5.5      | 18.2      | 23.6      | 30.9        | 21.8   |

るようにしている人が増えていることと関係があったんですね。納得しました。  
しかし、納得いかないこともあります。それは、教科書のマル読みに対する姿勢です。授業の初めに教科書のマル読みをしています。その時に自分が朗読(ろうどく)する場面ではなくても、友だちが読むペースに合わせて自分でも黙読(もくどく)することは小学校の時から習慣(しゅうかん)のはず。残念ながら、その「当たり前」の習慣が定着(ていちやく)していない人が20%もいます。「何とも言えない」と回答(かいとう)した人も合わせると36.4%にもなります。  
黙読(もくどく)していない人に気づくたびに、がっかりして私自身(わたし自身)くじけそうになります。  
でも、マル読みを続けています。それは、学習内容をクラスのみんなで確認(かくにん)することが「主体的に学ぶ(しゅたいてきにまなぶ)ための第一歩(だいいち ぼ)」だからです。「自分達はどうすればいいのか」を互(たが)いの知恵(ちえ)(意見)を出し合うときに、君たちの「学び」が発展(はってん)します。そのためには、

クラスのみんなが <sup>きょうつう</sup> 共通の話題と知識を持っている必要があります。だからマル読み  
をしているのです。遠くの目標にたどり着くために、「当たり前」のことを一歩ずつ  
ていねいにしていきましょう。教科書を覚えることがゴールではなく、教科書に  
書かれていることを知ることが学習のスタート地点なのです。

### 3 テスト前の勉強を考え直そう

定期テストでは、点数がとれるのに、実力テストのような時には <sup>まった</sup> 全くダメ、とい  
う人がたくさんいます。

あるいは、一生懸命勉強

したのにテストの点数が

上がらないと感じている人もたくさんいると思います。

そんな人たちは、もう一度、自分の「テスト勉強の方法」を見直してください。次  
の項目「4 テスト問題の形式に慣れよう」で、テスト勉強の一つの方法を説明して  
いますが、ここでは、普段からする学習の基本形式を伝えておきます。

特別に <sup>むずか</sup> 難しいテストでない限り、教科書に書かれている内容以外から <sup>い がい</sup> 出題される  
ことはありません。特に、公立高校の入試では、教科書の目次や見出しに使用されて  
いるキーワードを理解できていて、正確に再現できれば、ほとんどの問題に対応でき  
ます。それに、<sup>とうけい しりょう</sup> グラフや統計資料を読む力があれば万全です。定期テストでも同じ  
です。ですから、教科書に書かれていることを理解することが基本になります。

テスト前であっても、教科書を読むことから離れては良い結果を求めることは無理  
でしょう。教科書を自分で読む人があまりにも少ない(25.5%)ことにガッカリします。

さらに、私の作成しているノートは、「テスト対策」を意識しています。けれども、  
テスト前にノートを見直している人が、7月のアンケート調査よりも12月の調査の方  
が減っていることは残念です。自分のまとめたノートの「右側」の使い方を考え直し  
てください。

### 4 テスト問題の形式に慣れよう

一般的に、<sup>じゅけんべんきょう</sup> 受験勉強では「<sup>か こもん</sup> 過去問」と呼ばれる、過去に出題されたテスト問題を

と  
解きながらテスト問題

や、<sup>しゅつだいほうほう</sup> 出題方法の傾向を会

とく  
得する方法がとられてい

| ⑥ 社会科のテストの準備に、ノートを読み直していますか？ (数値は、%) |          |           |           |           |        |
|--------------------------------------|----------|-----------|-----------|-----------|--------|
|                                      | 1 全く読まない | 2 あまり読まない | 3 読むこともある | 4 とりあえず読む | 5 よく読む |
| 7月調査                                 | 13.6     | 18.6      | 10.2      | 33.9      | 23.7   |
| 12月調査                                | 5.5      | 14.5      | 32.7      | 34.5      | 12.7   |

| ⑦ テスト前の準備に、教科書を読み直していますか？ (数値は、%) |          |           |           |           |        |
|-----------------------------------|----------|-----------|-----------|-----------|--------|
|                                   | 1 全く読まない | 2 あまり読まない | 3 読むこともある | 4 とりあえず読む | 5 よく読む |
| 12月調査                             | 10.9     | 21.8      | 41.8      | 16.4      | 9.1    |

| ⑧ 『ワーク・ブック』の問題を解くときに、どのようにしていますか？ (数値は、%) |           |                   |                |  |  |
|-------------------------------------------|-----------|-------------------|----------------|--|--|
|                                           | 1 答えしか見ない | 2 問題をときながら答えを見ている | 3 問題をしてから答えを見る |  |  |
| 12月調査                                     | 0.0       | 34.5              | 65.5           |  |  |

| ⑨ 社会科のテストの前に、『ワーク・ブック』以外の参考書を使って復習をしていますか？ (数値は、%) |          |           |           |          |         |
|----------------------------------------------------|----------|-----------|-----------|----------|---------|
|                                                    | 1 全く使わない | 2 あまり使わない | 3 何とも言えない | 4 ときどき使う | 5 使っている |
| 7月調査                                               | 23.7     | 27.1      | 8.5       | 27.1     | 13.6    |
| 12月調査                                              | 14.5     | 23.6      | 12.7      | 36.4     | 12.7    |

ます。この勉強方法が、テスト成績に効果をもたらすことは経験的に知られています。『ワーク・ブック』をテスト前に宿題にしているのは、この経験値を利用しています。ただし、『ワーク・ブック』を利用する学習方法では「受験学力」はつきませんが、テストが終わると跡形もなく忘れてしまう可能性が高いことも知られています。

定期テストで良い成績を取っても、実力テストではガクンと落ちてしまう人は、この傾向が強いと考えてもいいでしょう。そのような傾向の強い人には、基本の教科書とノートを読み直す方法に帰ることを薦めます。知識と知識を関連づけて意味を正確に理解していないと、覚えたことが消えていくものです。教科書とノートを読み直した後で、再度『ワーク・ブック』を読み直すと、記憶がよみがえるでしょう。人間は忘れる動物です。テスト成績を上げるには、忘れる以上に、勉強することを繰り返す根気が必要です。

『ワーク・ブック』以外の参考書を使って「受験勉強」している人の少なさ(49.1%)が、大庄北中学校の特徴かも知れません。けれども、それよりもテスト前に教科書を読まない人の多さ(32.7%)が、テスト成績の上昇を阻んでいるように思えます。

## 5 GLTで 友だちから 主体的に学べる人が増えました

70.9%の人が、GLTが社会科の学習に役立っていると回答しました。4月に私の授業を始める前に行ったアンケート調査した結果は、57.3%でした。その差を見ると、GLTに対する君たちの考え方が変化して言うて良いでしょう。

| ⑩ GLT(グループ・ラーニング・タイム)は、社会科の学習に役立っていると思いますか？ (数値は、%) |          |           |           |             |        |
|-----------------------------------------------------|----------|-----------|-----------|-------------|--------|
|                                                     | 1 全く思わない | 2 あまり思わない | 3 何とも言えない | 4 なんとなくそう思う | 5 そう思う |
| 4月調査                                                | 3.3      | 13.1      | 26.2      | 31.1        | 26.2   |
| 7月調査                                                | 1.7      | 8.5       | 23.7      | 33.9        | 32.2   |
| 12月調査                                               | 1.8      | 5.5       | 21.8      | 41.8        | 29.1   |

授業での雰囲気を見ていると、1学期のGLTは仲良く「しゃべる」レベルで、互いの知的な好奇心を刺激し合うような「学習活動」になっていませんでした。ところが、2学期の中頃から次第に「学習活動」というレベルに近づいてきました。

特に、「防犯カメラとプライバシー」のテーマでGLTをしたときは、「議論」(学習主体と学習主体の意見交流)になっている班が大半を占めるようになっていました。その授業を参観した北九州市の先生方が「ディベートになっている」と感嘆していました(北九州市から多くの先生方が視察に来校されていました)。それが、翌日に書いてもらった「作文」のレベルの高さを生み出しました。学力の質は社会的な活動を通して高まる事実を私が確信した瞬間でした。その時のGLTについて、このアンケートと同時に書いてもらった「感想文」で記述している人たちがいます(「なんでやねん」No.76のp.6～p.11「GLTについて」)。是非、読んでください。

6 「なんでやねん」の活用率が上昇しました

社会科通信「なんでやねん」については、多くの人が好意的に受け止めてくれているようで、とてもうれしく思います。

87.3%の人が、「分かりやすい」（なんとなくそう思うを含む）と回答してくれている事実が表していると私は理解しています。

| ⑪ 社会科通信「なんでやねん」について、分かりやすいですか？ (数値は、%) |          |           |           |             |        |
|----------------------------------------|----------|-----------|-----------|-------------|--------|
|                                        | 1 全く思わない | 2 あまり思わない | 3 何とも言えない | 4 なんとなくそう思う | 5 そう思う |
| 7月調査                                   | 0.0      | 3.4       | 23.7      | 30.5        | 42.4   |
| 12月調査                                  | 1.8      | 1.8       | 9.1       | 38.2        | 49.1   |

| ⑫ 社会科通信「なんでやねん」について、自分のノート(右がわ)をまとめるときに利用していますか？ (%) |          |           |           |          |         |
|------------------------------------------------------|----------|-----------|-----------|----------|---------|
|                                                      | 1 全く使わない | 2 あまり使わない | 3 何とも言えない | 4 ときどき使う | 5 使っている |
| 7月調査                                                 | 8.6      | 19.0      | 24.1      | 17.2     | 31.0    |
| 12月調査                                                | 7.3      | 5.5       | 12.7      | 21.8     | 52.7    |

| ⑬ 社会科通信「なんでやねん」の「用語解説編」を、ノートのまとめやテスト勉強するときに使っていますか？ |          |           |           |          |         |
|-----------------------------------------------------|----------|-----------|-----------|----------|---------|
|                                                     | 1 全く使わない | 2 あまり使わない | 3 何とも言えない | 4 ときどき使う | 5 使っている |
| 7月調査                                                | 13.8     | 5.2       | 10.3      | 27.6     | 43.1    |
| 12月調査                                               | 3.6      | 1.8       | 16.4      | 12.7     | 65.5    |

この「なんでやねん」は、君たちも知っている通り、教科書にはない話題を提供するために発行しています。どんな書物にもページ数という限界があります。教科書もそうで、一つの事実を様々な角度から紹介することはできません。

しかし、社会科の目標には「現代の社会的事象に対する関心を高め、様々な資料を適切に収集、選択して多面的・多角的に考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断するとともに適切に表現する能力と態度を育てる」ということがあります(文部科学省「学習指導要領」より)。そのために、教科書が伝えきれなかった角度から見るとどうなのか、という意味で話題を提供しています。社会科をより深く学ぶために、「なんでやねん」を、これからも活用して欲しいと思います。

また、ノート整理やテスト勉強に「用語解説編」を利用している人が増えて(78.2%)、とてもうれしく思っています。3学期でも「用語解説編」を発行し続けます。